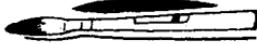


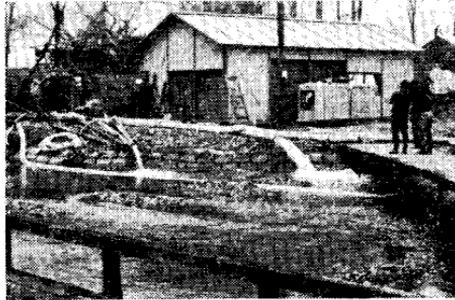
事業場素描



さつ ない 札 内 事 業 場

5年前の昭和40年には十勝川が未曾有の大豊漁に恵まれたことは、読者にも記憶に新しいことと思う。この年には、8,300万粒という多くの卵を収容したが、年々進展してゆく土地の開発、工業化の波には克てず、地下水、河川水の減水現象を生じて5,010万粒もの収容施設がありながら今ではその1/3程度の稚魚しか飼えない。これが当該紹介のプロローグとなるのは何とも寂しい。

魚にとって水は、人間にとっての空気に等しく、この水の確保のために昨年暮れ、養魚池の下にある増殖事業協会の親魚蓄養池用地



(揚水施設の設置)

に集水井戸を掘り、これをポンプアップ(写真)して約3 t/分の水を補充してやっと現状を維持している。昔、至る所から水が湧き出していたという話を聞くと、環境の変わり様に今更ながら驚く。

所で、この地は、帯広から東へ8キロの国道38号線沿いにあり、アキアジ漁で有名な千代田捕獲場も間近かな所に位置している。

職員は筆者の他に佐藤(和)技官、笠井技官が居り、それぞれ持前のファイトで十勝川のさけ資源の維持増大に励んでいる。

(佐々木正三)

おお た 太 田 事 業 場

根室本線を釧路から約1時間東に進むと門静駅に着く。ここで下車して北へ2軒余り碎石場の間を行くと太田事業場がある。事業場の100 m位裏には碎石場があり、発破の飛石があるので屋外作業時は発破の度に毎に屋内に逃げ込み難をさけている。

当場の歴史を調べると昭和2年厚岸水産会が平水式200万粒のふ化室を建設した事に始まり、当時は尾幌川孵化場と呼ばれ卵など千歳から移入される事が多かったようである。昭和12年北海道庁移官となり、虹別支場尾幌事業場となり、昭和17年十勝支場の設立に伴いこの管下に入り、十勝支場尾幌事業場と改

称、昭和26年には事業場所在地の村の名を取り太田事業場と改められた。当場は昔から用水に恵まれない場として大方の知られる所で昭和37年のふ化事業強化拡充計画に於ても重要河川に指定されながら施設、用水の問題から一時計画の実行が危ぶまれたのであるが厚岸地区沿岸の漁業背景、将来の発展を考慮し昭和40年施設の大改造が行なわれ、立体式ふ化器100台、1,200万粒収容に拡充された。ふ化用水は湧水をポンプアップし使用している。水温は7.0℃～8.0℃と安定している。然し養魚池が低く(河川水を導入している冬期水温0.1～0.2℃)水量も少なく苦勞する。

(飼育が出来ない)最近では沿岸業者間にもふ化事業の効果を再認識する者も多くなり、稚魚の増放流や未利用河川の開発を望む声が強

く、我々もこれ等の期待に応えるべく努力している。

(永江 敬三)
(佐藤 昭弘)

虹 別 事 業 場

釧路からローカル列車に乗り為え約2時間標津線西春別駅に降り立つと、はるか遠くに標高800mの西別岳が望まれる。

車をとばせて15分、虹別の小さな部落を横目にしながら、さらに7Km奥へ入る。やがてゆるいカーブを下ると鮮かに映えたオレンジ色の橋が周囲の雪の白さを破って目に入ってくる。ここが虹別事業場である。

夏は、うっそうとした深緑に包まれ構内至る処から湧き上がる水は、自然の魅力を満喫させてくれる。こんな大自然に開かれた当場の歴史は古く、明治23年、この水源の地を採って事業を始めて以来、もう80年の歳月が流れている。

当場は、卵子収容能力7,500万粒の施設を持ち、第1ふ化室はア

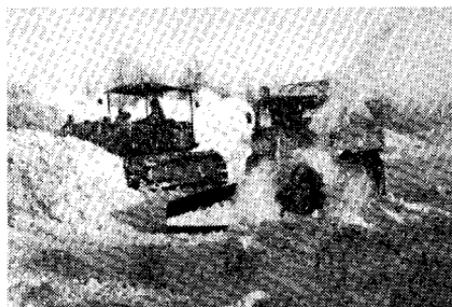
トキンス式(1部増ア)、第2ふ化室はアトキンス・増アが、半々となっている。

最近、西別川のサケ親魚派上は昨年の大漁を除きハイレベルを維持しているが、本年(45年度)は、沿岸が好漁の割には河川捕獲が6万尾と振わず平年の10万尾には、及ばなかった。しかし連日トラックで運び込まれる活魚の姿に番屋の若い衆や職員達は、鼻息も荒くアキアジが水しぶきを上げる度に威勢の良いかけ声上がる。これらは、構内で採卵され、このうち毎年数百万粒が発眼卵として管外へ移出されている。

虹別特産(?)のベニサケも今年で5年目を迎え、現在成育池には、アラスカ、支笏湖、西別川の3産種(約60万尾)が38gにも大きく育てて元気な体をもてあまし、5月の放流を待っている。

こう書けば当場を知らない者は、一見良い水が豊富で仕事に張りがある様に見えるが、そうではない。悩みがつがある。それは、夏は「アブ」と「ブヨ」。春は、ふ化場専用道路(約3Km)の悪路でウニモクも通れなくなり、

まるで、水田かと思わせるごとく化してしまう。また冬は、ウニモク除雪車でも全く歯が立たない程の吹きだまりが出来、1週間も孤立状態が続く日も数回ある。こんな時は、スキーだけが頼りである。



(除雪作業)

去年除雪に苦勞した場長は、今年ガン(鉄砲)仲間の根室生産連参事の好意によりブルドーザを春まで借りる事が出来、これによって交通も杜絶する事はないだろう。

最後に、今後ふ化場が発展していく上で、まず、道路整備それに100年前と変りない日覆方式から脱皮する事にあり、養魚池自体を全面改良し、急速ろ過装置、さらには、主力河川集中資源センターの設立等々、きりが無いが、増々ふ化場が進歩する事を期待してやまない。

(浅井 久男)